

平成 27 年度 御 幸 小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

心身ともに健康で、よく考えて判断する力と自主的に行動するたくましい実践力をもち、誠実で思いやりがあり、豊かな心をもった児童の育成を目指す。

- 素直で、思いやりのある子・・・やさしく ○ 自ら考え、進んで学習する子・・・かしこく
- 健康で、ねばり強い子・・・たくましく

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

全職員が、本校で勤務することに誇りと責任をもち、愛と和をもって常に児童・地域とともに歩む姿を模索し、教職員としての資質を高め、家庭や地域社会との相互関係を深めながら、21 世紀をたくましく生きる児童の育成に全力で取り組むこととする。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 豊かな人間性の育成（やさしく）

- 児童一人一人が心のこもったあいさつができ、また、互いを認め合い、生き生きと輝き、社会性に満ちた生活が送れるようにするため、「豊かな心育成全校運動」を推進する。
 - ・ きまりを守る児童を育成するため、校内の目標・規律を設け、教職員が同一歩調で貫く指導を展開する。
 - ・ いじめを絶対許さない態度の育成に全校で努める。
 - ・ 自分の気持ちをしっかりと伝えることができるようになるための豊かな表現力を育てる指導を行う。
 - ・ 動植物を大切に育て、心の優しさを持てるようにする。

(2) 確かな学力の向上（かしこく）

- ・ 基礎・基本を重視し、確かな学力の定着を図るため「チャレンジ学習全校運動」を推進し、めあてに向かって全力で取り組む児童を育成する。
- ・ 積極的な表現力の育成を図る。
- ・ 読書全校運動を推進し、本好きな子を育成する。
- 保護者の理解や協力を得ながら、基本的な学習習慣づくりや家庭学習の充実を図る。

(3) 健康で安全な生活（たくましく）

- ・ 健康への意識向上を図るため「元気っ子活動全校運動」を推進する。
- ・ 健康で安全な生活を営むため、よりよい生活習慣づくりを強化し、家庭との連携を図る。
- ・ 運動の奨励を図り、体力・技能の向上を目指す。
- ・ 朝食の徹底、お弁当の日の有効活用など食育を推進し、食を大切にする心を育てる。
- ・ 地域や関係機関の協力を得て、児童の安全確保に万全を期する。

【鬼怒地域学校園教育ビジョン】

【テーマ】自立 ～よりよい判断をし、学習や学校生活に意欲をもって取り組む子どもの育成～

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・ 地域との絆を深め、地域人材の支援を得て、体験活動を重視して、未来に向かって力強く頑張ろうとする意欲に満ちた児童を育成する活動を展開する。

【学 習 指 導】

- 授業における子ども同士の学び合いを通し、積極的な表現力の育成を行う。
- 家庭の協力も得て、めあてに向かって自分から学習に取り組めるようにする。

【道徳教育（児童生徒指導）】

- 思いやりと優しさを持って行動し、互いを認め合うと共に、豊かな表現力により自分の考えを伝え自己有用感をしっかりと持つ。

【健康（保健安全・食育）・体力】

- 運動や健康に関心を持ち、自ら進んで健康力を高めていこうとする。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、今の学校が好きである」⇒児童の肯定的回答 90%以上 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である」⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① ゆとりある充実した学校をめざし、年間行事計画や学校行事計画の適正な実施と改善に努める。 ② 互いのよさを認め合い、高め合う学級集団づくりを推進する。 ・Q-U 調査を活用した個別指導の充実、Eンカウターでの学級づくりの推進 ・わくわくタイムでのクラス共遊、縦割り共遊の活性化	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 92.5%，教職員の肯定的回答 100%と数値指標を上回った。 ・行事計画等の改善に努め、ゆとりある教育活動が実施できた。 ・Q-U 調査やEンカウターを活用し、個別指導や学級づくりに努め、互いに認め合う心が育ってきた。 【次年度の方針】 ・縦割り班での共遊等も推進し、全校で認め合う雰囲気も高まってきたが、さらに、認め合い、高め合う集団づくりに努めていく。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上 「教員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している」⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① ねらいを明確にしたわかる授業をめざし、指導法や学習形態の工夫・改善に努める。 ② 学習指導や児童指導に対して全教職員の共通理解を図り、一人一人の子どものニーズに合った指導・支援を推進する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 98.8%，教職員の肯定的回答 100%と数値指標を上回った。 ・わかる授業を目指し、研修等で指導法や学習形態の工夫改善に努めてきた。 ・全教職員で共通理解を図り、必要に応じて、組織として児童への指導や支援を行ってきた。 【次年度の方針】 ・授業研究等の充実に努め、実践を通して指導法の改善に努めていく。 ・個に応じた指導や支援を充実させていくために、校内での情報の共有や支援体制の確立に努めていく。
	A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「みゆきよい子の一日」を全学級の教室に掲示し、保護者に配付することで、家庭との連携を図りながら、決まりやマナーの徹底に努める。 ② 全学級において、学級目標の達成を目指し、具体的な手立てを講じ、実行することで、秩序あるより良い集団作りに努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 90.2%と指標を上回った。 ・「みゆきよい子の一日」の学級掲示や、保護者への配付により、決まりやマナーの徹底に努めた。 ・学級目標達成の取り組みにおいては、運用面より方法改善の必要性があることがわかった。 【次年度の方針】 ・「みゆきよい子の一日」の活用を同様に実施する。 ・学級目標の達成を目指した取り組みは、各クラスで、学級の状況を把握しながら、具体的方法を模索し、実施し、適宜振り返りを行い、秩序あるより良い集団作りに努める。

A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 教材研究を共有し、予測されるつまづきへの支援の手立てを工夫して、きめ細やかな指導の実践に努める。 ② 新学習指導要領を踏まえ、言語活動の充実を図り、主体的に学ぶ態度や基礎・基本の定着に努める。 ③ 学習の基盤となる認め合い、<u>高め合う学級集団づくり</u>をめざして、学び合う態度やスキルの育成に努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 97.9%と指標を上回った。 ・習熟度別学習や少人数指導を3年から6年で実施し、個に応じた指導に努めてきた。 ・基礎・基本の定着を目指して、ぐんぐんタイムやチャレンジテストを計画的に実施した。 ・研究授業等を通して、視点を明確にしたよさを認め合う場を設定して、認め合い高め合う学級集団づくりを目指した。 【次年度の方針】 ・学び合いの場の設定や話し方・聞き方などのスキルの育成を図る。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生は、いじめがいけないことをしっかり教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 80%以上 「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。」⇒教職員、保護者の肯定的回答 80%以上	① 全クラスにおいて、「いじめゼロ標語」を作成し、掲示することで、いじめを許さない意識を高める。 ② 児童対象のいじめ調査を定期的に行い、教員間の情報交換を積極的に行うことで、いじめの早期発見、早期解決に努める。 ③ 「学校だより」などの通知に、いじめ防止に関する取組についての内容を掲載することで、保護者や地域に向けての情報発信を行う。	A	【達成状況】 ・児童、教職員の肯定的回答は、それぞれ 99.5%、100%と高水準であったが、保護者の肯定的回答は前年度より下降し 71.8%であった。 ・定期的ないじめ調査の実施、「学校だより」による情報発信を行ってきたが、児童と保護者の回答の内容差をみると、学校で行っている取り組みが十分に伝わっていないように思われる。 【次年度の方針】 ・「いじめゼロ標語」、いじめ調査は今年度同様実施する。 ・「学校だより」だけでなく、「学年だより」にもいじめに関わる取り組みについての内容を掲載していく。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 学校行事や学年行事等は、実施後そのつど評価し、改善すべき点について検討して、次年度の計画に生かすようにする。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答 96.3%と数値指標を上回った。 ・前年度の評価を生かし、適切な教育課程の実施に努めた。また、実施後の評価や自己点検等で改善点について検討していく。 【次年度の方針】 ・よりよい教育課程の編成に向けて、学校だけでなく、保護者や地域の意見等も取り入れていけるようにする。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで積極的に情報を発信・提供している。」⇒保護者の肯定的回答 85%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 85%以上	① 土曜授業(年間 2 回)や授業参観(年間 3 回)を実施したり、学校行事等への積極的な参加を呼びかけたりして、地域や保護者に教育活動を積極的に公開する。 ② 学校だより、学年・学級だよりなど各種たよりを定期的に発行したり、ホームページの更新などを随時行ったりしながら、地域や保護者に学校の様子を知らせていく。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答 97.6%、地域住民の肯定的回答 100%と数値指標を上回った。 ・授業等の積極的な公開や、各種たよりの発行、ホームページの更新等を通して、学校からの情報の発信に努めた。 【次年度の方針】 ・学校教育に、保護者や地域の理解と協力を得られるように、今後も教育活動の積極的な公開や情報の発信に努めていく。

教育活動の状況	A	A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」⇒保護者の肯定的回答 80%以上 【数値目標】 出前授業・地域人材活用の授業を各学年 1 回以上実施した。	① 地域協議会の協力を得て、地域の教育力を取り入れ、特色ある学校経営の充実を図る。 ② 企業による専門家出前授業や地域人材を活用した授業を各学年 1 回以上実施する。 ③ 地域の教育力をさらに活用できるように、支援ボランティアの確保や地域人材の発掘に努め、体験活動の拡充を図る。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答 92.7%と数値指標を上回り、各学年で、1 回以上地域や企業等の人材を活用した活動を実施できた。 ・地域協議会の協力で、学習支援ボランティアや地域人材の活用を推進し、特色ある教育活動の充実に努めた。 ・専門家の出前授業や企業の人材を活用して、よりよい教育活動を推進できた。 【次年度の方針】 ・地域や企業等の教育力をさらに効果的に活用し、教育活動の充実を図っていく。
		A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は荷物や備品が整理整頓されるなど学習にふさわしい環境である。」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 季節感や児童の成長・学習の成果が見える掲示物を工夫したり、清掃指導の充実や校内緑化の推進を図ったりするなど、よりよい環境づくりに努める。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答 91.6%と数値目標を上回った。教室や特別教室・資料室の環境整備や学習成果の掲示など、学校をあげて取り組んだ。 【次年度の方針】 ・今年度引き続き、日頃から荷物・備品の整理整頓など児童が学習しやすい環境作りに努める。
		B 1 学校全体で読書活動を積極的に推進している 【数値指標】 全体アンケートの「児童は様々なジャンルの本を楽しみながら読んでいる。」⇒児童の肯定的回答 80%以上 【数値目標】 1 人当たりの 1 か月の読書量 ⇒低学年 20 冊以上、中学年 15 冊以上、高学年 10 冊以上	① 月・金の朝の時間の図書の貸し出し(全学年)、出張図書室(下学年)や休み時間の開架(上学年)、読書まつりなどを通して、読書量の増加を図る。 ② 読書カードの活用や学年だより、図書館だより等での呼びかけで、家庭での読書を進めていく。さらに、読書カードの利用の多い児童に対して、しおり等で奨励し、読書に対する関心を高める。 ③	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 90.8%と数値目標が昨年度を上回った。全校で、1 週間の中で 1 回は授業中に図書室に行き、図書を借りる機会を設けた。読書習慣の確立に役立った。 ・1 か月の読書量については、低学年：29 冊、中学年：20 冊、高学年：14 冊と数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・今後も読書習慣を身に付けさせるための方策を立てて全校共通理解のもと推進していく。
	B	A 10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童(生徒)は、あいさつをしている。」⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 児童会と地域で連携した「あいさつ運動」を推進し、あいさつに対する意識向上を目指す。 ② 全学級で、長期休業明けに、あいさつに関するロールプレイングを実施し、あいさつが自然にできる態度を養う。 ③ 「あいさつ強化月間」を設け、児童会からあいさつに対する呼びかけを行うとともに、生活目標を活用し、学校全体であいさつに対する指導を一貫して行う。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 95.5%と指標を上回ったが、保護者は 64.9%と指標を下回った。 ・あいさつ運動、学級でのロールプレイング、生活目標の活用と実施してきたが、児童と保護者の回答の差異をみると、学校の外であいさつのできていない児童が多くいると考えられる。 【次年度の方針】 ・あいさつ運動、学級でのロールプレイング、生活目標の活用を実施するとともに、児童指導主任や交通安全係を中心として、あらゆる教職員から、集会などを利用し、あいさつの呼びかけを積極的に行っていく。

健康・体力	A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。」⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 全職員の共通理解のもと、時と場に応じた言葉づかいの一貫した指導に努めるとともに、通知や懇談会等を通して家庭との連携を図りながら、習慣化を目指す。	A	【達成状況】 - 児童、教職員の肯定的回答は、それぞれ 87.4%、91.7%であり、指標を上回った。 【次年度の方針】 - 時と場に応じた言葉づかいの一貫した指導に努めるとともに、まずは授業中の言葉遣いに絞り、必要最低限のマナーについて、共通理解を図り、全教職員で一貫した指導にあたる。
	B 2 集団生活の中で教師や友達の話に耳を傾け、気持ちを集中させることができる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、朝会や集会等、教師や友達の話に耳を傾け、しっかりと聞いている。」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 毎日の授業や集会を通して、「時間を守る」「人の話をしっかり聞く」などの態度が十分身につくように、全職員の共通理解のもと、一貫した指導を繰り返し行っていく。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 96.5%と指標を上回っているが、現状から判断すると、授業に臨む態度については、課題が残る。 【次年度の方針】 - 集会、授業、あらゆる場面において、適宜「時間を守る」、「人の話をしっかり聞く」ことの大切さについて繰り返し呼びかけ、意識づけする。
	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している。」⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 水泳検定や縄跳び検定の実施、元気っ子活動全校運動（縦割り班共遊・児童会活動・長縄跳び大会等）の実施により、運動への意欲を高める。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答が 91.3%であり、数値指標の 85%を上回った。 - 各種検定や全校運動の実施が、運動への意欲喚起につながった。 【次年度の方針】 - 次年度も今年度の取り組みを継続する。また、検定内容や実施方法について、全職員で情報を共有し、運動への意欲喚起に努める。
	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、好き嫌いなく給食（食事）を食べている。」⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 月 1 回の食育だよりの発行、お弁当の日の事前の計画と事後の振り返りの実施等により、食育や健康に対する児童や家庭の意識の高揚を図る。 ② 給食指導について、各学年で共通理解を図る。 ③ ランチルーム利用時には、栄養職員が栄養指導を行うことで、児童の意識の高揚を図る。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答が 80.3%であり、数値指標の 80%を上回った。しかし、保護者の肯定的回答は 70.1%であり、数値指標を下回った。 - 給食主任と栄養士が中心となって食育指導を進めたことにより、昨年度よりも児童の肯定的回答が増加した。 【次年度の方針】 - 次年度も今年度の取り組みを継続する。また、学級懇談や個人懇談などで、保護者に、給食時の児童の実態や様子を伝えていく。

	B 3 学校は、児童の安全な登下校の実施に取り組んでいる 【数値指標】 全体アンケート「学校は児童の安全な登下校の実施に努めている。」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 登下校時の安全を確保するため、月 1 回の登校指導、学年での集団下校の実践に取り組むとともに、学年朝会や帰りの会等でも随時指導する。また、懇談会の際に保護者に協力を依頼したり、地域協議会を通して、地域の協力も得られるようにしたりしていく。 ② 一斉下校時に、割り当てになっている学年が巡回を行う。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答が 81.7%であり、数値指標の 80%を上回った。 ・一斉下校時に巡回を行うことにより、下校時の状況把握と安全確保に努めた。 【次年度の方針】 ・次年度も今年度の取り組みを継続する。また、登校指導や下校指導での気付きを全職員で共有し、児童が安全に登下校できるよう努める。
	A 14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童（生徒）は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している。」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業ではペアやグループ、一斉などねらいに応じた<u>適切な学習形態での学びあいの場を設定</u>する。 ② 話し方や聞き方のポイントを教室に掲示したり、<u>話し合いのルールを発達段階に応じて設定して日々の授業に活用</u>したりして、進んで話し合うことができるようにしていく。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答 95.1%と数値目標を大きく上回った。 ・ねらいに応じた適切な学習形態について全校で研究してきた結果、児童も自信を持って学習に取り組んでいる。 ・発達段階に応じた「話す・聞く」のスキルがまだ身に付いていない児童が多い。 【次年度の方針】 ・今後もねらいに応じた適切な学習形態を引き続き実施していくと共に、「話す・聞く」のスキルを身に付けさせるために、日々の授業の中で実践していく。
学 習	A 15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 年 2 回 (6・10 月) 学習強化月間を設け、<u>学習習慣定着への取り組みを中心に「相手を見て最後までよく聞き考える」態度の育成を図る。</u>	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答 92.0%で、昨年度を上回り、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【次年度の方針】 ・今年度に引き続き、年 2 回の学習指導強化月間への取り組みを中心にして「相手を見て最後までよく聞く」学習態度の定着を図る指導を継続していく。
	B 4 漢字や計算チャレンジに積極的に取り組んでいる 【数値指標】 全体アンケート「児童は、漢字や計算チャレンジに積極的に取り組んでいる。」⇒児童の肯定的回答 80%以上 【数値目標】 ⇒合格者 (80 点以上) が 70%以上	① 漢字・計算において、年間 3 回のチャレンジテストを実施し、基礎・基本の定着を図る。 ② 毎週 2 回 (火・木の朝) ぐんぐんタイムを実施し、国語と算数の基礎・基本の定着を図る。 ③ チャレンジテストに向けて、目標をもって家庭学習に取り組めるようにする。 ④ 懇談会、学年・学級だよりにより家庭学習の啓発を図る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答 84.3%で数値指標を上回った。テスト前に目標を立てて、自主的に取り組ませるようにしてきた。 ・2 回チャレンジ漢字合格者 71%、計算合格者 89%と、数値目標も上回った。 【次年度の方針】 ・家庭学習を推進するために学年だよりなどを利用し啓発を図る。 ・チャレンジテストは児童に自信を持たせ、学習への意欲を高めるものと考え、教師も児童が合格できるように手立てを考えて取り組むようにする。また、児童へはめあてを持って、自分から家庭学習に取り組めるようカードを工夫する。

本校の特色・課題等	B5 本校の児童の実態や地域の実態を踏まえて、特色ある学校づくりを積極的に推進している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校はあいさつ運動やチャレンジ学習、体力づくり等の特色ある学校づくりを積極的に推進している。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 3つの全校運動（豊かな心育成全校運動、チャレンジ学習全校運動、元気っ子活動全校運動）の積極的な推進により「生き生きと輝き、たくましく、共に生きる力を育む子」の育成に努める。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 100%、保護者の肯定的回答は昨年度より下がり 84.2%だったが、数値指標は上回った。 ・本校の特色である3つの全校運動を全職員で共通理解を図りながら推進できた。また、各種たよりや保護者会等の場を活用して、保護者や地域に周知することにも努めた。 【次年度の方針】 ・本年度の全校運動の取組を振り返り、さらに充実させていくために、次年度の活動の重点化を図っていく。
-----------	---	---	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

★肯定的回答の数値が高かった項目について

- A1:「学校全体に活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である」(教職員 100%, 保護者 91.8%, 地域 100%, 児童 92.5%)
- A2:「教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している」(教職員 100%, 保護者 94.9%, 地域 95%, 児童 98.8%)
- A3:「児童は授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」(教職員 100%, 保護者 91.2%, 地域 85.0%, 児童 90.2%)
- A4:「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細やかな指導をしている」(教職員 100%, 保護者 87.4%, 地域 94%, 児童 97.9%)
- A6:「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」(教職員 100%, 保護者 96.3%, 地域 100%, 児童 92.9%)
- A7:「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」(教職員 100%, 保護者 97.6%, 地域 100%)
- A8:「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」
(教職員 100%, 保護者 92.7%, 地域 95%, 児童 92.5%)
- A9:「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である」
(教職員 95.8%, 保護者 91.6%, 地域 100%, 児童 91.3%)
- A12:「児童は、休み時間や放課後などに積極的に運動している」(教職員 100%, 保護者 87.8%, 地域 90%, 児童 91.3%)
- A14:「児童は、授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している」
(教職員 100%, 保護者 85.8%, 地域 88.2%, 児童 95.1%)

A15:「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」(教職員 96%, 保護者 88.6%, 地域 88.9%, 児童 92%)

B2:「児童は朝会や集会等、教師や友達の話に耳を傾け、しっかりと聞いている」(教職員 100%, 児童 96.5%)

・20項目中12項目で、評価者の肯定的回答が85%を超え、本校の学校運営について、全体的には適切な教育活動が実施されているという評価を得られた。今年度も、情報を積極的に発信し、家庭や地域と連携を図り、開かれた学校づくりを推進できたものと考えられる。

★肯定的回答の数値が低かった項目について

- A11:「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」(教職員 91.7%, 保護者 66.8%, 地域 70.0%, 児童 87.4%)
- ・昨年度より肯定的回答は上がったが、保護者や地域の肯定的回答の数値は低かった。引き続き、授業を中心に「です、ます」等の丁寧な言葉づかいや時と場に応じた言葉づかいの指導を全職員の共通理解を図り徹底していく。

★肯定的回答の数値が指標を下回った項目について

A5:「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる」(教職員 100%, 保護者 71.8%, 地域 86.7%, 児童 99.5%)

A10:「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」(教職員 95.8%, 保護者 64.9%, 地域 55.0%, 児童 95.5%)

A13:「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」(教職員 87.5%, 保護者 70.1%, 地域 87%, 児童 80.3%)

・いじめ対策について、依然として保護者の肯定的回答が低かった。学校の取組について、ホームページに掲載してはいるが、まだまだ周知不足であると思われる。たより、懇談会等様々な機会を活用し、情報提供に努めていきたい。

・あいさつについては、教職員、児童の肯定的回答は高かったが、保護者、地域の肯定的回答は低かった。学校内では、あいさつができていないが、学校外でのあいさつができていないと考えられる。今後、地域でのあいさつ運動を推進していく方策を検討していきたい。

・給食については、児童の肯定的回答が上がったが、保護者の肯定的回答は昨年度を下回ってしまった。食育については、家庭との連携が不可欠なので、たより等を通じて給食時の児童の様子等についても情報提供に努めていく。

6 学校関係者評価

- ・評価結果をみると、おおむね適切な教育活動が行われていると考えられる。今後も改善を図りながら継続的な取組に努めてほしい。
- ・児童会が行った「いじめゼロ」集会をたまたま見る機会があったが、児童が主体となって寸劇やインタビューを通していじめ撲滅を訴えていた。学校だよりやホームページでの情報提供だけでなく、このような活動を実際に保護者や地域の方々にも見ってもらう機会をつくると、学校の取組への理解がより得られるのではないか。
- ・家の前で、児童にあいさつをするようにしているが、始めのころに比べるとあいさつがよくなるようになってきた。こちらから積極的に声をかけ続けることで、あいさつができるようになると思う。地域ぐるみでの取組を検討していくとよい。
- ・いきなりあいさつをしても、返ってこなかったが、防犯ベストをつけていたら、あいさつが返ってきた。子供たちなりに注意しているのであろう。目印を身に付ける、顔見知りになるなど児童が安心できるようにすることで、あいさつができるようになるのではないか。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○学校経営

- ・本校の教育活動をさらに充実したものにしていくために、全教職員が共通理解を図って協働していく体制を築いていくとともに、家庭や地域へ、学校の取組の情報を様々な場で発信していき、理解や支援、協力を得られるようにしていく。
- ・地域人材や企業等の活用を工夫しながら、体験活動を充実させ、特色ある学校づくりを推進していく。

○学習指導

- ・引き続き、認め合い高め合う学級集団づくりに努め、学び合いの場の設定や話し方・聞き方等のスキルの育成に取り組む。
- ・実践を通して指導法の工夫や改善に努め、個に応じた指導や支援の充実を進めていく。
- ・家庭と連携し、家庭学習の習慣化を図り、基礎基本の定着、読書の推進に努める。

○道徳教育・児童指導

- ・気持ちのよいあいさつが校内だけでなく、校外でもできるように、家庭や地域、鬼怒地域学校園の各校とも連携を図り、あらゆる場を活用し、継続的な指導を続けていく。正しい言葉づかいについては、授業を中心に習慣化を図っていく。
- ・いじめ対策等、保護者や地域に伝わりにくい活動については、積極的に情報の提供に努め、理解や協力を得られるようにしていく。

○健康（保健安全・食育）

- ・健康や安全に関心をもち、自分から体力の向上や健康維持、危険防止に努める児童の育成を、家庭・地域の理解と協力を得ながら進めていく。
- ・食育に関しては、今後も給食主任と栄養士を中心とした指導を継続しながら、食育便り、懇談会等で家庭への情報の提供と啓発に努めていく。

マネジメントアンケート肯定的回答割合比較表(H27)

宇都宮市立御幸小学校

No.	質 問	教職員	保護者	地域住民	児童生徒
A1	・学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である	100	91.8	100	92.5
A2	・教職員は協力し、児童(生徒)のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している	100	94.9	95.0	98.8
A3	・児童(生徒)は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している	95.8	91.2	85.0	90.2
A4	・教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている	100	87.4	93.8	97.9
A5	・学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。	100	71.8	86.7	99.5
A6	・学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている	100	96.3	100	92.9
A7	・学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している	100	97.6	100	
A8	・学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている	100	92.7	95.0	92.5
A9	・学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である	95.8	91.6	100	91.3
A10	・児童(生徒)は、時と場に応じたあいさつをしている	95.8	64.9	55.0	95.5
A11	・児童(生徒)は、時と場に応じた言葉づかいをしている	91.7	66.8	70.0	87.4
A12	・児童(生徒)は、休み時間や放課後などに積極的に運動をしている	100	87.8	90.0	91.3
A13	・児童(生徒)は、好き嫌いなく給食を食べている	87.5	70.1	86.7	80.3
A14	・児童(生徒)は、授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している	100	85.8	88.2	95.1
A15	・児童(生徒)は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している	96	88.6	88.9	92.0
B1	・私は、いろいろな種類の本を読むことが楽しい【児】 ・児童は、進んで読書に取り組んでいる【教・保】	95.8	71.1		90.8
B2	・児童は、朝会や集会等、教師や友達の話に耳を傾け、しっかりと聞いている	100			96.5
B3	・学校は、児童の安全な登下校の実施に進んで取り組んでいる	100	81.7	95.0	
B4	・児童は、漢字や計算チャレンジに進んで取り組んでいる	100			84.3
B5	・学校は、児童や地域の実態を踏まえて、3つの全校運動を中心とした特色ある学校づくりに積極的に取り組んでいる	100	84.2	95.0	

凡例 太 字: 肯定的回答割合が85%を超える項目

赤 字: 肯定的回答割合が80%を下回る項目

(網掛け): 肯定的回答割合が数値指標を下回る項目